

# 特別支援教育研究論文集

—令和2年度 特別支援教育研究助成事業—

研究協力：独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

通常の学級における特別な支援を必要とする児童への  
子供理解と支援に関する研究  
—「子供理解を深める研修ガイド」を年間研修計画に  
位置付けたことによる指導の工夫の充実—

静岡県清水町立西小学校

教諭 渡邊 直樹

令和3年3月

公益財団法人みずほ教育福祉財団

## 要旨

本研究は、筆者が地域実践研究員として参画した国立特別支援教育総合研究所による令和元年度地域実践研究「学校における合理的配慮及び基礎的環境整備に関する研究」において作成した「合理的配慮の提供につなげるための子供理解を深める研修ガイド」に基づいた研修会を、静岡県清水町のA小学校において校内研修の年間計画へ位置付けることで、校内研修の充実を図り、研修ガイドを年間計画へ位置付けることの有効性と研修ガイドを運用する上での留意点について検討することを目的とした。なお、本論文における校内研修の充実とは、第一に、既存の校内研修テーマについての研修を推進しつつ、協議や分析の中に困難さに応じた支援や指導の工夫といった視点を付け加えることで、校内研修自体の裾野を広げること、第二に、参加した教員が、それぞれが担当する学級や授業に在籍している特別な支援を必要としている児童に対して、「社会モデル」に基づいた子供理解を深め、その後の支援や指導に生かしていくことと意図した。

実際の年間計画では、前半を「知識パート」として、学習指導要領における困難さに応じた支援や指導の工夫についての研修会や、特別支援教育コーディネーターやスクールカウンセラーから発達検査から分かる困難さについて学ぶ研修会等を設定した。後半は「実践パート」として、3つの授業研究会（6年・外国語科、5年・特別の教科道徳、特別支援学級1～3年・図画工作）を実施した。その後、授業者へのインタビュー調査と研修参加者への質問紙調査を行った。

このように研修ガイドに基づいた研修会を校内研修の年間計画へ位置付けた結果、校内研修の充実として、次のような成果を挙げることができる。第一に、実施された授業研究会では、教科指導についての授業改善をする視点を持ちつつ、通常の学級における特別支援教育について研修を深めることができたということである。第二に、参加した教員が児童の発達のアンバランスさや困難さについて考えつつ、どうすれば成功体験を積めるか考えるようになったことである。課題としては、教師集団として知識や実践の引き出しを増やし、教員一人一人が専門性を高めていくことに向き合い続けていくことが挙げられる。

また、研修ガイドを年間計画へ位置付けることの有効性としては、特別支援教育に関する校内研修と既存の授業研究会をつなげることができるという点、各教科の授業改善を進めつつ、特別な支援を必要としている児童への理解を深めることで、授業研究会自体の分析がより深まった点が挙げられる。一方、研修ガイドを運用する上での留意点としては、研修主任と管理職、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー等が、校内研修の目的を共有した上で連携することが重要な点や、研修の推進役以外の教員も研修ガイドを読み、目的と方法を理解することが挙げられる。

キーワード：校内研修、通常の学級、子供理解